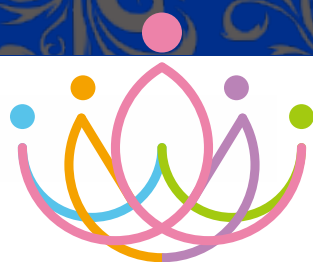


備後教区報

第 177 号

2022(令和4)年3月31日



ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人 御誕生

50
立教開宗
00



CONTENTS

- ◇慶讃法要情報
- ◇人権に関する連続研修会
- ◇広島刑務所をめぐる回想録
- ◇僧侶研修会
- ◇News & 活動情報
- ◇予報・インフォメーション



▲得度講習会でのひとコマ



慶讃法要 気運高まる

～ 懸垂幕揭示 ～



親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要
各組参拝日一覧（1次募集分）

期	期日	午前/午後	参拝団・参拝人数	参拝人数 合 計
第1期	3/29 (水)	午前	深津組参拝団	65
			比婆組参拝団	70
			三次組3班参拝団	20
第1期	3/30 (木)	午後	龍中里組3班 (Cグループ) 参拝団	25
			沼隈西組1班参拝団	70
			沖石組参拝団	55
第2期	4/11 (火)	午前	龍中里組1班 (Aグループ) 参拝団	23
			龍中里組4班 (Dグループ) 参拝団	22
			鴨川北組参拝団	45
			沼隈西組2班参拝団	20
			三次組1班参拝団	40
第2期	4/13 (木)	午前	奥組参拝団	50
			三谿組参拝団	40
			三次組2班参拝団	60
第3期	4/24 (月)	午後	三次組4班参拝団	19
			御調東組1班参拝団	40
			世羅組参拝団	100
第3期	4/26 (水)	午後	沼隈南組参拝団	75
			御調西組参拝団	75
第4期	5/9 (火)	午前	龍中里組2班 (Bグループ) 参拝団	20
			芦田組参拝団	85
			三次組6班参拝団	5
			御調東組2班参拝団	40
第5期	5/17 (水)	午前	中組参拝団	45
			鴨川組参拝団	55
			三次組5班参拝団	15
			御調東組3班参拝団	40

この度、広報伝道部会の事業として、道路に面した教堂正面に設置している懸垂幕の張替えを行った。
懸垂幕には、来年よりお迎えする親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のロゴマーク、スローガンを印刷、道行く人や有縁の方々への法要周知を図り、また教区内の気運向上を図っていく。

■来る2023(令和5)年、宗門では親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお勤めいたします。

■昨年10月から本年2月末日までを期限とした団体参拝一次募集にて左記の通り各組の参拝日が決定しました。

■二次募集については、一次募集の結果、参拝席に空きがある参拝日(座)に限り、中央法要事務所より公開募集が行われます。受入れ可能な参拝日(座)の公開時期、また申込方法等については、随時更新されます宗派HPにてご確認ください。教区教務所までお問い合わせください。

2021(令和3)年度・2022(令和4)年度

＜備後教区 新しい時代の念仏者養成のための＞人権に関する連続研修

－御同朋の社会をめざして－【差別やいじめのない社会に】



第1回

講師 辻 由起子 先生

大阪府子ども家庭サポーター、大阪府子ども虐待防止アドバイザーをお迎えしました。

辻先生の特集記事が『めぐみ』(VOL252)に掲載されている他、『本願寺新報』等にコラム・記事が掲載されています。

次代を担う念仏者の養成、人権研修への理解を目的とした第1回目の「人権に関する連続研修」が12月6日に開催された。辻由起子先生は自らの経験を踏まえての活動をエネルギーに伝えてくださった。

(文責・同朋社会部会)

講 題「誰もがしあわせになれる社会に 人権を考えるために 子育て、児童相談の場から」

◆12月6日開催の人権に関する 連続研修(以下養成研) 講義内容

当日の参加者は16名。講義・ワークシヨップ・全体会・「由起子の部屋」という進行で辻先生のお話を徹底して聞くことができるように努めました。

辻先生は大阪北部の農家に生まれ、お寺の近くで念仏に触れる環境で育たれました。その中で若くして結婚されたが夫のDV(ドメスティック・バイオレンス)に苦しみ、また夫が定職につかず、その苦しみを親に相談できないまま、離婚。シングルマザーとして働きながらの子育てし、孤立して長女に手をあげたこともあったといいます。

2010年に大阪市で幼い姉弟がマンションで餓死した事件を知り、貧困の中で苦しみもがく親子を社会全体で支援しなければこのような不幸は防げないこと、自分も子どもを守るどころか、暴力をも与えていたことに気づき、まずシングルマザーを救済する法律の実現に奔走しました。しかし、法律が作られても一人ひとりの意識

が変わらないと現実が変わらないことに気づき、孤立に苦しむ一人ひとりに対応していくという地域での活動を進めていくようになったと語られました。

その上で、「まず住むところがない」「生活が来ないと人権を考える余裕が来ない」「子育ては本能的に出来ない、周囲の人から学べない」となど、活動の中からそれまで私たちが気づけなかった現実を次々と言葉にされた。

辻先生は現在、貧困や孤立、DVなどからの救済を求める地域の人々の声に向き合い、一人ひとり違う状況に適切に対応できるように、行政と連携しつつ食料支援、住居支援、シェアハウスの設置などに走り回っておられます。

それらの活動の意義を楽しくエネルギーギッシュに私たちに伝えてくださいました。

※開催趣旨について教区報
第175号4頁に掲載。



◆「由起子の部屋によういそ」

養成研の第一回、ご講義が終了したのち辻先生の控室に「由起子の部屋」の看板がかけられました。もっとお話が聞きたい方、お話しをしたい方は由起子の部屋へどうぞとのご案内でした。

興味津々で、「由起子の部屋」を訪ねると、「お菓子をもってくればよかったわ。いつもはお茶をしながら色々とお話しをするから」と笑顔で迎えていただきました。

「お寺でのサマースクールや地域の子どもの会の企画について、今後どのようなことが出来るのか迷うことがあります」という話題から、どんなアイデアが出てくる出てくる、引き出しの多さに圧倒されました。

「この時は学生さんが手伝いに来てくれて」とか、「この時はお父さん活躍

の会で」、また地元の農家や行政から資金の協力や情報発信などの協力を得ていて、人との繋がりや関わりを積極的につくり、大切にされていることがお話から感じられました。それは誰かがどこかへ繋がる事が出来るようにするためであり、それぞれの立場や様々な思いを持っている人、どんな状況の人でも参加しやすい「場」、孤立しない「場」、居心地のいい「場」をバリエーション豊富に準備することは、押し付けではない支援ということにもつながるのだと思います。

「由起子の部屋」という心地よい「場」を体感したことで、人の集う場であり、喜びや悲しみの感情が露になる場である、お寺という「場」をどのようにしていききたいのか、改めて考えるきっかけとなりました。

◆「第一回養成研ワークショップに参加して」

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」

今回の研修のワークショップに参加して、そんなことをふと思いました。辻先生のお話を聞きながら、門信徒様

方のことを思うと、人権問題に直面されている現場の声を聞くことは、ご門徒様とお付き合いをする上でも大変重要だと思いました。知らないことを聞くも聞かぬも恥ずかしいならば、耳を傾ける方を選んだほうが良いのではないかと。

今回のワークショップで一番印象的だったのがそのスタイルです。参加者それぞれが、色分けされた付箋に、本匿名で「質問」「所感」「相談」等を書き、用意された色ごとのボードに貼っていきます。最後に担当者か、ボ

ードに貼られた付箋の言葉を読みあげ、先生に質問や相談に答えていただきました。一般の講演会のような、マイクを渡された一部の人の声や、選ばれた質問用紙だけではなく、参加者全員の声が届くようになっていました。質問しやすく、感想を述べやすく、参加者全員で声を共有でき、誰でも参加しやすいと思えました。参加者の声が多様に届くことで、講演では聞けなかった様々なことを教えていただきました。

同調圧力や集団に迎合しやすい状況に流されないためには？ と言う質問

に辻先生は、「国語教育が大事です。言語化、言葉に出来るといいと思います」とお答えにられました。その応答を聞いて、「迎合でない寛容性、排他的でない純粋性」というある和上の言葉を思い出しました。どうしたらおせっかいにならないか？ との質問には、「相手の目をみるのが大事。嫌がっているときは相手の目が死んでいます。喜んでいるときは笑顔が咲いていたり、顔がほころんでいます」2時間の研修で様々なことを教えていただきました。

自坊の前住職は晩年に、「浄土真宗は『聞』の宗教である。聴は聴覚で聴くこと、聞は言葉の中身を聞くこと」とよく言っていました。私が念仏を申すための縁となってくださっている様々な他者が直面されている人権問題への声を聞くことで、新たに気づかされることがあり、本願名号を聞信し、益々御恩報謝のお念仏を申す身にお育ていただくのではないでしょうか。そんなことを考えさせられたワークショップでした。

次回は 障害者と人権を考える

～ニーズの普遍性～ 生涯学習の基礎

岡 宏 先生(近畿大学生物理理工学部講師 ほか)



性与人権を考える

感染症与人権

一切の生きとし生けるものは
幸福であれ 安穩であれ 安樂であれ

スッタニパーダ

御同朋のねがい



み教えに学ぶ

子どもと人権
誰もがしあわせになれる社会に
辻 由起子先生(2021年実施)



- ▼安穩とは恐怖もなく、危害を加えられることもないこと。
そんな願いを受けて「あなた」も「わたし」も、差別やいじめのない誰もが生きやすい社会をつくるため、少し立ち止まってご一緒に「人権」について学びませんか？
- ▼ワークショップを交えた楽しい講座です。多くのご参加をお待ちしております。
参加費：各講座 1,000 円(講座ごとにお申込みができます)

主催：同朋社会部会

詳細は今後のご案内をご覧ください。

備後教区 <新しい時代の念仏者養成のための>人権に関する連続研修
— 御同朋の社会をめざして — 【差別やいじめのない社会に】

投稿

広島刑務所分院をめぐる回想録

終戦直後に開墾作業、大池
工事に従事されていた、刑務
所入所者との交流を、寺山壽
範前住職(三次組明正寺)よ
り寄稿いただいた。

■はじめに

終戦直後まもなく、広島刑務所が入所多数のため収容不可能なのか、食料事情なのか、双三郡板木村字上板木(現三次市三和町)に分院が設置され、そこで開墾作業、大池工事(写真1)等々に従事していた。

当時父が保護司、母が民生委員(両方とも現在の役職名)を拝命していた関係か、交流が始まっていた。時々全員で寺へ参り講話を聴くとか、母は背負い

籠を背負って戸々を回り、米・野菜を提供してもらっては、何度か四キロ位離れている施設へ届けていた。私こと昭和21年春、県立三次中学校に入学、1学期終わりがより体調を崩し、2学期中休学していた。そのころの出会いを、記憶を辿りながら一筆啓上いたします。

過年私が三次地区保護司会会長、広島保護司会連合会副会長在任中、広島刑務所庶務課長に調べていただきましたが、広島刑務所には記録が無いとの返事をいただきました。私こと馬齢89歳で、歴史に記録していただきたくお願い申し上げます。

■面会

あたりが暗くなるまで外で働き、日が暮れてから夕食の準備をする頃で、祖母・母・私が夕食を終えたころ、庫裡玄関の木戸を強くたたき音がした。「明正寺さん、お客さんを案内してきましたけー」の大声、村

境の家のおじいさんでした。木戸を開けると、崩れるように玄関の土間のたたきにもがき、大きな声で泣き崩れ慟哭がしばらく続いた。見れば女学生(現高校生)のような人で、泣き続けて話にならない。やっと落ち着いて話せるようになり、主人が刑務所に入っており、手紙に芸備線志和地駅下車、明正寺を訪ねて面会に行くようにと。Y市より東京經由で3日目に着いたとのこと。志和地駅前

で近くに寺がある



▲写真1



▲写真2

かと尋ねると、「川筋の道を2里半ばかり行きなさい」とのこと、村境に鬼ヶ城というところがあり、左は川・右は山道を半里心細く思いながら歩き、やつと家の灯りを見付け、その家の老人が提灯を付けて案内して下さったとのこと、戦争花嫁でひと月ばかり一緒に暮らしたとのこと、施設は1里余りのところであり、当時電話等あるわけではなく、母が行って話し合ったのでありましょう。当時といえど施設外での面会は許されず、食料の調達等の名目で看守1名

と共に来訪、彼には庫裡の裏の方へ行くように言い、看守と母は大話をしたり、昼食にドブロクの接待、戦後ほとんどの家でドブロクを作っており、お互いに味自慢で薦め合っていた。夕方帰る時には看守は腰がぬけて歩行できず、荷車で大根を枕に稲縄でしばりつけ、引きながら帰って行った。後日また面会に来たとのこと。

■講話と作業

全員が本堂で父の講話を聴くことが度々あり、併せて奉仕作業をしてくれた。駄屋(厩舎)の上棟(写真2)や土壁の土運びなどの手伝いの作業をしてもらった。その度に昼食が彼らの楽しみであった。平素一膳めしであるうから、家庭的に茶碗でご飯とお味噌汁のおかわりを自由に腹いっぱいどうぞ。まるで梔子そば並みのスピードで、母がよく噛んでと叫びながら給仕をしていた。その後、我が家の

ご飯は黒さが増した。

■釈放

釈放は吉島でされた。その日のうちに芸備線甲立駅下車、2里の道を小走りで来訪。「今朝釈放になりました。色々お世話になったのが嬉しく、お礼と報告に来ました」と何人も来訪。家まで3日かかるとか、遠方の人が多く、母はおむすびを両面真っ黒に焼き持たせた。昼食を共にし、2、3時間居て帰途についた。向かいの山辺の道を寺の方に向けて最敬礼をし、両手を大きく振り、見えなくなるまで大声でさようならと見送った。報告とお礼で来てくれたのが私の記憶では5、6人ばかり、後から来た人が「この前〇〇がきませんでしたか。お寺で良かったと吉島で話したら、自分も是非行ってみたい」と、関係者以外にも来訪してくれたようだ。

以上、思い出を綴りました。

僧侶研修会

2月22日(火)、御調東組照源寺(久本晃道住職)門徒会館にて、「備後教区僧侶研修会」が開催された。コロナウィルス第6波の影響により、例年とは異なり午後のみの講義、更にはリモートでのプログラムとなった。

当日の講師は、本願寺派勸学・龍谷大学名誉教授の深川宣暢和上(山口教区大津東組西念寺住職)。オミクロン株の余波を鑑み、また先生ご自身も3回目のワクチン接種直後の事で開催が危ぶまれたが、無事リモートでの実現に至った。

テーマ「真宗教義の基礎知識と他力仏教の構造」

リモートでの講義のため、話し手聞き手双方に難しさも有ったが、いざ深川和上が口を開かれると、その優しく丁寧な語り口に引き込まれるように、参加者は熱心に聞き入った。「浄土真宗とは何か?」。先生は全体を3章に分け、それを7節に区切ってご講義された。

第1章でまず、「浄土真宗」横超の仏教」と明らかにされ、第1節に仏教の歴史的展開について、釈尊入滅からその黎明期について話された。折に触れて『浄土真宗聖典(註釈版)』の頁を紐解かれ、宗祖の言葉



に沿って説明された。特に「横超」の言葉に焦点を絞り、「自力教(縦)」「衆生が動く仏教」「他力教(横)」「如来が動く仏教」の対比は非常に分かりやすいものだった。

第2章第1節に浄土真宗は『大無量寿経』に拠るものと明示された。第2・3節では『教行信証』に踏み込み、本願成就文「聞其名号信心歡喜」(信巻)、「門余の釈」(化真土巻)「正信偈」に於いて、宗祖の真意「八万四千の法門はいずれも本願の海に注いでいく」即ち「すべての仏教は浄土真宗におさまること」と、お示しくださった。

第4節は、浄土真宗における「救済」の成立について。「聞即信」とは我々も良く聞く言葉だが、(信巻)に『聞』といふは、衆生、仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし、これを聞といふなり」、つまり「自力」「疑心」であるとは明らかにしてくださった。

のち数回の休憩を挟んで講義は進んで行くが、その内容

「浄土真宗とは……その神髄を語る！」

〽僧侶 照源寺へ集う〽



は、「往相還相」「機法一体」「信罪福心」等、浄土真宗では、馴染み深い言葉を丁寧に説明された。そこには、弥陀の救いをしっかりと伝えてもらいたいという、先生の熱意が感じられた。今回の講義は、年配の

僧侶方には長年の自らの歩みを再確認するものであり、若い僧侶達には前へと進んで行く力強いお導きであつたに違いない。

また、先生は仏教とは「実践」に極まると述べられ、「わけ登る麓の道は異なれど同じ高嶺の月を見るかな」の和歌を紹介された。この歌は一見納得がいく様だが、「遠くから眺めているうちは、その一歩(仏道)に一歩も踏み入れてはいないのです」と、言葉を厳しくされたが、その真意は釈尊の真言：

教区月報

1月 (January)

- 11日 教堂常例法座
- 12日 布教団長・副団長会議
- 17日 子ども若者ご縁づくり推進委員会
- 18日 少年連盟役員会
- 19日 おつとめ教室・勤式練習会
- 21日 同朋社会部会
- 25日 法務法務専門委員会
- 27日 広報伝道・専門委員会合同会議
- 28日 事業検討委員会
- 29日 法要常任委員会
- 28日 連区教務所長会議 (WEB)
- 29日 仏壮理事會

2月 (February)

- 2日 第28回真宗講座
- 7日 教区報会議 (WEB)
- 8日 子ども若者ご縁づくり推進委員会
- 9日 憲法問題に関する研究会
- 10日 同朋社会部会
- 11日 第二回法要委員会
- 14日 教堂常例法座
- 15日 全国布教使研修会 (WEB)
- 17日 布教団長・副団長会議
- 21日 常備会
- 17日 おつとめ教室・勤式練習会
- 21日 仏婦役員会
- 21日 参与会幹事会

そして、それを明らかにされた宗祖の御心をただ「我が事」とせよというに他ならない。

そうして理路整然と進んで行く中にも、先生は、「お寺」に生まれ、決められた道すじを歩むことに対する、疑問、反発心を自らの体験として語られ、「八万四千の法門」を仮に一日一門ずつ完成したとしても、生涯単純計算にしても3万に満たないと知り、真宗一道を学ぶことがその道であると思いつつ、若き日の思い出等を振り返り我々に優しく語りかけて下さった。このお話は数年前のご縁にも同様に触れられた事であり、和上の青年期の御心持ちを伺い知ると同時に、親しさを感じるエピソードとなっている。

講義終了後、栗原一乗広報伝道部会長の閉会挨拶があった。親鸞聖人降誕850年・立教開宗800年法要を迎えるにあたり、個々の前向きな努力、そして協調の必要性を話される中で、如何なる多忙の日々、

困難な時代においても常にお聖教に触れる重要性を強調された事が大変印象深い。

今後、宗門は何処へ向かうのか？そして、その要とすべきものは何なのか？その答えを自らに問い、聖教に問えと聞かされた一日であった。

News & 活動情報

真宗講座を開催

広報伝道部会

2月2日(水)、安方哲爾先生(大阪教区南郡組正満寺前住職)を講師に迎え、備後教区連続研修第28回「真宗講座」が開催され、29名が参加した。例年、全3回の予定で開催している本講座だが、今年度は

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出等と重なり、1回のみで開催となった。

昨年度より、「一生に一度は『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を読んでみませんか？」というテーマのもと、90歳のご生涯をかけて親鸞聖人が著された『教行信証』を学んでいる。

第28回は『教行信証(行巻)』を学び、「念仏一つの救い」に預けられた浄土真宗のみ教えを味わった。



22日 僧侶研修会(御調東組照源寺)
24日 ご縁づくりサポーター協議会
25日 布教団部門別・実践運動臨時研修会

3月(march)

8日 得度講習会(～9日)
10日 得度考查
11日 教堂常例法座
14日 門徒推進員世話人会
15日 おつとめ教室・勤式練習会
16日 門徒総代会研修会
(リーデンローズ)
17日 重島プロジェクトリーダー協議会
18日 定期教区会
22日 教堂参与会・聞法会
23日 更生保護小理事会
24日 責役総代会
25日 ハンセン病現地学習
28日 後期勤式研修会
29日 組長会
青テキスト学習会



研究会を開催

同朋社会部会

2月9日(水)、同朋社会部会主催による2021(令和3)年度「憲法問題」に関する研究会が本願寺備後教堂で開催され、12名が参加した。

ご講師清未愛砂教授(室蘭大学大学院工学研究科)には、オンライン出講いただき、「憲法の平和主義について」講義をいただき、参加者にとって学びを深める会となった。



研修会・臨時総会を開催

布教団

2月25日(金)、備後教区布教団部門別・実践運動研修会、臨時総会を本願寺備後教堂に



て開催した。

実践運動研修会には、季平博昭師(御調東組法光寺住職、NPO法人オレンジハート理事「子育て支援」他)をお招きし、部門別研修会には、岡村喜史師(本願寺史料研究所研究員・中央仏教学院講師他)にオンライン出講頂いた。

まず、実践運動研修会では、「子どもたちを育むために」貧困の現状と課題」をテーマに子どもたちを取り巻く貧困の現状について学び、子ども一人一人が笑顔で暮らせる環境を整えることが重要であると結ばれた。

さらに部門別研修会では、岡村喜史師より2023年に親鸞聖人850年・立教開宗

800年慶讃法要をお迎えする意義について、「親鸞聖人の念仏帰入について」と題して教示いただき、参加者にとって有意義な研修会となった。

連絡協議会を開催

子ども若者ご縁づくり

2月24日(木)、子ども・若者ご縁づくりサポーター連絡協議会をオンライン併用にて開催し、21名(教務所出席5名、オンライン出席16名)が出席した。まず、宗派ご縁づくり推進室にて作成された動画を視聴、子ども・若者ご縁づくりの理念や願いについて参加者一同再確認を行い、次年度に向けた事業推進計画について、宗派推進室の藤間幹夫マネージャーより説明いただいた。次に、教区内における各組の推進状況について情報共有を行った。

その後は、4名ずつ班に分かれてのグループワークを行い、アフターコロナも想定した行事の企画等意見を出し合い、全体会にて各班で出た意見を共有した。

新型コロナウイルス感染症が流行して以降、これまで開催できていた行事も軒並み中止

予報

4月(april)

10日 仏壮総会・研修会
11日 教堂常例法座

13日 仏婦総会・幹部研修会
20日 おつとめ教室・勤式練習会
25日 仏婦総連盟総会(オンライン)

5月(may)

11日 教堂常例法座
15日 おつとめ教室・勤式練習会

6月(june)

11日 教堂常例法座
20日 布教団総会・研修会
21日 布教団夏期布教大会
24日 第29回真宗講座
30日 連区布教使研修会(7/1)

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、一報ください。

FAXTEL (084) 624-5759
(084) 631-6363

となり、各現場において苦慮されている現状が浮き彫りとなった。「コロナだから何もできない」と割り切ることもできるが、「今だからこそ何かできることがあるのでは？」という

視点で、新たな発想のもとご縁づくりを展開していくことも大切ではないか、今後の推進に向けた新たな課題を共有する協議会となった。



8名が受講

得度講習会

3月8日(火)～9日(水)の2日間、本願寺備後教堂にて得度講習会を開催し、8名が受講した。

得度講習会は、得度習礼に向けた事前講習として昨年度から受講が義務化されている(※但し、宗門関係機関での履修証明により受講免除の場合もある)

り)。受講者は、2日間の日程で、水上義乗教務所長、和泉裕生勤式指導員(神石組正光寺)や藤田徹信勤式指導員補佐(御調西組光徳寺)の指導の下、仏教の基礎知識や宗制について、また法式規範や勤式作法など、講義や実習にて学びを深めた。

連絡協議会を開催

3月14日(月)、本願寺備後教堂において「備後教区門徒推進員連絡協議会研修会」を開催した。

講師に、藤本直樹門信徒部会部長・奥組増福寺住職をお招きした。

門推



「善き友を得ること」ということと題して、門徒推進員に期待することをご教示いただき、参加者にとつて有意義な研修会となった。

得度許可

おめでとうございます
「敬称略」

比婆組 西教寺

西田 温子(釋晃尚)

(令和3年12月15日付)

教師授与

おめでとうございます
「敬称略」

備中里組 正専寺

秋山 圭次(釋圭峰)

(令和3年8月20日付)

敬 弔

お悔やみ申し上げます
「敬称略」

比婆組 西念寺 坊守

栗原三千枝(1月3日寂)

鴨川北組 真光寺 住職

古孝 隆範(1月19日寂)

世羅組 光源坊 衆徒

菅田 信男(1月21日寂)

三次組 西福寺 前住職

常光 博史(2月25日寂)

沼隈西組 堅中寺 前坊守

日照 蓉子(3月14日寂)

香典返礼

ありがとうございます
「敬称略」

沼隈南組 南泉坊様
鴨川北組 真光寺様

常例法座

(毎月11日)
出講者(敬称略)

4月

「高齢者の方に寄り添って」

高梁市 泉瀧寺 大塚裕玄

5月

「願いの中に」

福山市 円福寺 三條義見

6月

「仏がいて私がいる」

三次市 正法寺 小武秀道

お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz FM77.7MHz
Radio BINGO FM77.7MHz

フードドライブ(シングルマザー支援活動)

深津組の取り組み



■2月9日(水)、深津組(松井一昭組長)では、重点プロジェクトの取り組みとして、藤井明徳リーダー(専光寺)と今回の活動提案者藤間幹夫住職(光明寺)のもと、NPO法人こどもステーション(福山市神辺町道上)へ支援物資を無事に届ける事が出来た。

深津組組内のみ、僅か1週間の募集期間だったが、多くの支援品が集まり、現地スタッフの方々も大変喜んでおられた。

■この活動は、家庭内で賞味期限が近くなり、ややもすれば無駄に廃棄される可能性のある食品を、子育てに日々悪戦苦闘する、シングルマザーとその子どもたちのために役立てて頂くというものだ。

深津組では、北部寺院は現地へ直接、南部寺院は備後教堂に集積し現地へ搬送した。また、組費より20,000円の活動資金を寄付させて頂いた。

■SDG'sの機運が高まる中、我々にとってもフードロスを見つめ直す良い機会となった。



「本願寺重点プロジェクトにそつて」
深津組コロナ禍中での活動を模索」

今年も、冬が終わり桜の咲く季節となりました。私の自坊にも、境内の周りに桜があります。4月にはさくら茶会という行事を行い、来ていただいた皆さんに、お茶とお菓子をお出しして、桜の花見を楽しんでいただいています。▼もともとたくさん桜があつたらいいな、とずっと思っていました。今年、お寺の周りとお寺への道沿いに30本の桜の木を植えました。長年、お寺の境内の剪定をしていただいているご門徒さんとその息子さんにも手伝いをお願いしたので、30本くらい、と安易に考えていました。もともと草木が生えている傾斜地に植えるのは、思った以上に大変でした。まず草刈りをして木を伐採し、根や石を除きながら穴を掘り、そこに肥料を混ぜた土を入れて桜の木を植え、風で倒れたり根が切れないように添え木をします。結局、ご門徒さんにほとんどしていただき、植え終わりました。▼植え終えた桜の木を眺めながら、今年82歳になるご門徒さんが、「10年後には満開の桜が見事でしような」とおっしゃったので、私は、「その時は一緒に花見をしましょうや」とお答えしました。

(K・K)

